

# シヤンティ

shanti

2011  
秋  
10月号

特集

カンボジア  
未来を見つめて20年

難民キャンプから

30年



公益社団法人  
シヤンティ国際ボランティア会

# 道

## カンボジア事務所 20周年を迎えて

カンボジア事務所副所長 イー・トン

1991年、SVAはプノンペン中心街のスカイライホテルに2人のカンボジア人スタッフと共に最初の事務所を開設しました。手東耕治氏（現アドバイザー）が私に報告してくれた日のことを昨日のことのように思い出します。

日本・カンボジア友好職業訓練センターの設立支援から始まったカンボジア国内でのSVAの支援活動は、小学校校舎建設、絵本出版、伝統文化、仏教復興支援と広がり、プノンペンから地方へと支援を展開していきました。事務所の壁にかけられているカンボジア全国地図には、メコン川の下流からトンレサップ湖の北側に向かって蜂の巣のように広がる活動地が表されています。

この20年間、カンボジアでのSVAの活動は常に危険と背中合わせであり、決して容易な道ではありませんでした。目標の達成のために、互いの手を取りあひながら今日まで活動を継続してこられた

ができました。

「ボランティアの道は先駆的であり、わざわざ険しい道を通るようなもの。そのための道がいつか人の通れる道となるようにするのが私たちの使命。その使命を全うできるようにご支援者、スタッフ、すべての人々と共に歩んでいきたい。」かつての故馬実成師の言葉が20年経過した今、カンボジアで少しずつ現実となるようになっていきます。

私たちの支援した200校以上の学校から多くの子どもたちがはばたいていきました。100タイトルを超えるカンボジアの絵本が子どもたちへと届けられました。そして、トリピタカ（南伝大蔵経）

の復刻に関わらせて頂いたことは、カンボジアの戦後の仏教復興の歴史の1ページとなりました。伝統文化支援の活動の中で植えた何千本もの苗木は大きく成長し、中でもコンポントム州サンポープレイコック遺跡に植えられた桜の木は美しい花を咲かせています。今、私たちの夢が少しずつかなっていきます。

シャンティ！ シャンティ！ シャンティ！



イー・トン YI THON  
1993年1997年カンボジア宗教学顧問。南伝大蔵経復刻事業に関わる。1998年伝統文化事業部顧問となり、2006年副所長（伝統文化事業アドバイザー兼任）現在に至る。

### SVAの使命

私たちは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。特にアジアにおける教育・文化活動を通じて、「共に生き、共に学ぶ」ことができるシャンティ（平和）な社会の実現をはかります。

### Cover Photo

川の向こうに大きく育った森がある。イー・トン副所長の指し示す先にカンボジアの田園地帯、地平線が広がっていた。



⑥難民申請について知らせるポスターもある。  
⑦アメリカで定住している様子を知らせる広報掲示板。  
⑧広報掲示板を真剣に見つめる青年の姿が見られる。

①メラ難民キャンプ全景  
②第5図書館で日本に定住した5家族計27人の様子をメラ難民キャンプの住民に知らせている。  
③最初の6か月間は東京の研修施設で日本語や生活習慣を学んだ。そのときの日本語クラス、社会見学、学校訪問、会社訪問、観光、日常生活などの様子を写した写真が掲示されている（掲示された写真は日本大使館提供）  
④コミュニティ図書館は「地域の情報拠点」。日本語の本が置かれたコーナーも作った。⑤第三国定住までのプロセスを図入りで知らせるポスター。

「とはできないのか」訪れた難民キャンプで質問を投げかけられた。遠い国よりも祖国に近く同アジアである日本に、新しい生活の拠点をもちたいと願っている人々もいる。  
定住した彼らのことを気にかけているNGO・NPOも多いが、地理的条件や政府方針などからあまりアクセスできずにいる。彼らがいつの日か日本も故郷だと思えることを願ひ、私たちが寄り添える可能性を探していきたいと思う。（海外事業課タイ/ミャンマー（ビルマ）難民事業担当 鈴木島子）

新しい生活を開始した27人の目に、日本は今、どのように映っているのだろうか。  
第三国定住プログラムにより、メラ難民キャンプから5家族27人が、成田空港に降り立ってから1年が経とうとしている。キャンプ内での語学や文化研修、その後日本国内での6か月間の語学研修、職業訓練などを経て、現在は千葉県と三重県に移り住んでいる。  
第2陣で出発する30人もメラ難民キャンプに控えている。アジアで初めて日本政府がこのプログラムを通して難民を受け入れたことは、難民キャンプで暮らす人々にとっても関心が高い。「彼らはどのような生活を送っているのか」「メラ難民キャンプだけではなく、他の難民キャンプからも日本に行くこ

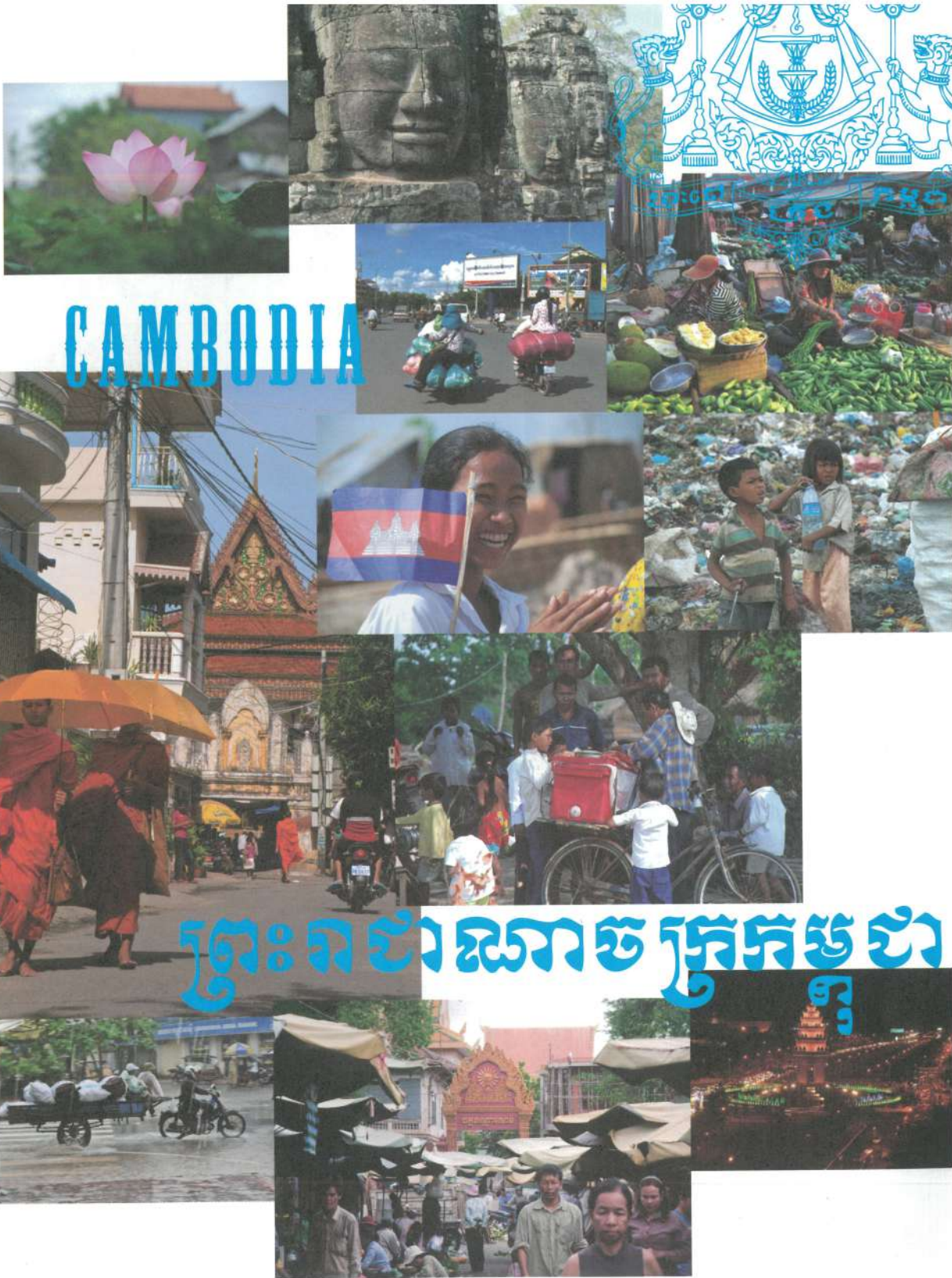
## プロジェクトの風景

a Scene of Our Project

ミャンマー（ビルマ）難民事業  
第三国定住難民受入から1年

# カンボジア

## 未来を見つめて20年



### CAMBODIA

### ព្រះនាមរាជ ក្រុងភ្នំពេញ

タイ・カンボジア国境に開設されたカンボジア難民キャンプで、1980年に教育文化支援活動を開始したが、カンボジアとSVAのつながりの始まりでした。

現在、経済成長で活気があるプノンペンですが、SVAカンボジア事務所を開設した1991年当時、カンボジアはまだ内戦状態にありました。政党間での武力衝突でプノンペンも戦場になり、SVAの活動が治安悪化でストップすることも。

交通の便が悪い地方では、今も耐久性が無い仮教室が多く残り、運動場や井戸、トイレなどの施設、いす・黒板・教壇・図書・文房具スポーツ用品などの備品も慢性的に不足しており、教員の不足や質の向上が重要な課題として残っています。

2012年、SVAでは、子どもはもちろん大人の読書環境を良くするため、学校図書館事業を始めます。

**Q** 何語で話しているの？

**A** ◆ 公用語はクメール語です。フランスの植民地だった歴史があるため、年輩の方の中にはフランス語を流暢に話することができる人もいます。現在、外国語の中では英語が一番普及しており、ベトナム語、タイ語、中国語が通じるところも多いです。最近では日本語や韓国語が人気です。SVAでは公用語のクメール語の絵本、紙芝居を出版しています。

**Q** 通貨は？

**A** ◆ 通貨単位はリエルです。現在、1000リエル約2円です。USDも一般に流通しており、多くのお店ではUSDで支払いができますが、おつりはリエルで渡されることが多いです。

**Q** ポルポト政権とは？

**A** ◆ カンボジアの悲惨な過去の一つである、ポルポト政権時代は1975年から1979年の約4年間続きました。急進的な共産主義政策を推し進めたポルポト派は、教育面では、学校教員を廃止し、教員の8割、さらに高等教育、初等・中等教育を受けた生徒まで次々に虐殺しました。また、焚書政策を行ったため、カンボジアの書物の大半が焼かれ、失われました。ポルポト政権後は、学校もなければ、先生もいない、勉強するための書物も全くない状況だったのです。そのような過去を持つカンボジアで、SVAは学校建設、絵本・紙芝居出版といった事業を行い、より良い教育が行えるよう支援しています。

**Q** 学校制度は？

**A** ◆ 小学校6年、中学校3年、高校3年、大学4年で、日本と同じ制度です。小学校は2学期制をとり、1学期は10月～4月上旬、2学期は4月下旬～7月となります。多くの小学校では、教室数や教員数が足りないため、午前と午後で生徒を入れ替える2部制を取って対応しています。午前中は午前7時から11時まで、午後の部は午後1時から5時まで授業が行われています。それでも追いつかない学校は3部制導入を余儀なくされています。

## カンボジアを知る 6つの質問

**Q** どんな神さまを信じているの？

**A** ◆ 国民の90%を占めるクメール人のほとんどが仏教徒(上座部仏教)です。そのほかイスラム教(人口の約4%、主に少数民族のチャム族)やキリスト教徒もいます。女性が僧侶に触れることや、直接物を渡すことは許されていません。また、頭は精霊の宿る神聖なところと考えられており、子どもの頭を撫でることはタブーです。

**Q** SVAの新しい事業は？

**A** ◆ 2012年からは新規事業が始まります。具体的には、学校校舎建設に併せ、学校図書館建設も一緒に行う「ドリーム小学校事業」、学校図書館運営の支援を行う「住民参加による学校図書館事業」です。また、カンボジアではまだ数が少ない図書館の充実をめざし、「コミュニティ図書館の調査を来年始めます。絵本・紙芝居出版事業はこれまで通り行っていきます。」



### 街並み

朝5時から渋滞が始まり、とてもにぎやかで目覚まし時計いらす。あつという間に通りはバイクであふれかえる。



### お坊さん

近代化が進むなか、今も変わらず、街中には普通にお坊さんの姿を見かける。仏教の国だと感じる瞬間。



### 食事

家族全員揃ってする。クメール料理を食べる。スープはかかせない。



### 市場

そろわないものはないほど、何でも。値段もスーパーより安い。庶民の味方だ。市場の中で食事もでき、ピリヤード場などもある。



### 結婚式

結婚式場でやるタイプと、自宅でやるタイプがある。カンボジアの結婚式は4日間。花婿の髪を切る儀式があったり、フルーツを食べさせあったり、盛りだくさんの内容だ。式の間、花嫁は20種類くらいお色直しをする。それぞれの服に意味があるそうだ。



### かまど

これも昔からあるものだが、まだまだ現役。お湯を沸かすときなど、ガスコンロと一緒に使う。



### 洗濯板

洗濯機もあるけれど、やっぱり使い慣れた洗濯板の方がきれいに洗えるらしく、愛用者が多い。

### 神棚

商売繁盛、無病息災を祈る中華系の神棚。商家などでよく見かける。毎月4回線香をあげ、1月と10月には特別なお供えものをする。1年に1回、新しいものと交換する。



# かわらぬもの かわりゆくもの カンボジアの今昔



### 高層ビル

現在、建設中のものをふくめ、20階以上の高層ビルは5つほどある。これらは韓国や中国資本だ。



### Facebook やオンラインゲーム

若者の間ではFacebookが流行っている。カンボジアのPOPソングの中にFacebookを題材にした曲も出てきた。また、格安で遊べることから学生の間でオンラインゲームが流行っている。

### 車とバイク

ホンダやスズキなどよく見かける。大型バイクも増えてきている。信号が少ないので、だいたい20キロくらいでゆっくり走る。事故を防ぐため、お互いにクラクションをならしあう。警察の取り締まりが厳しく、ヘルメットなし、飲酒運転などの違反に目を光らせている。車はレクサスの4輪駆動が1番人気。数が多いのはトヨタのカムリ。レクサスとiPhoneはステータスアイテム。



### 遊園地

つい最近できた「ドリームランド」という遊園地。観覧車や乗り物がたくさんある。

### 家

カンボジア郊外では、高級住宅や高層マンションが増えてきている。家は西洋風で大きい。



### 大型ショッピングモール

ショッピングモールは、「ソリヤ」、「ソバンナ」などが有名。こういうモールに行けば、CDショップや家電などもあるので、一通りそろえることができる。ソバンナにはインラインスケート場、映画館、ゲームセンターなどがあり、若者が集まる。ちなみに、近年のカンボジア映画はホラーが多い。



### 携帯電話

携帯電話の普及数は約730万件。(全人口の49%) 携帯会社は9社ほどで、iPhoneが人気。ノキア製の安い製品が出回っているが、それでも若者にとっては高額。中古を使う人が多い。



### レストラン

プノンペンでは外国のレストランが増えており、さまざまな料理が食べられる。



### 週末のお出かけ

週末に車で出かけるのが流行っている。都会の喧噪を離れ、コンボンスプー、シハヌークビルなど、海や田舎でハンモックに揺られ、ゆっくりくつろいで過ごす。

### 朝と夕方の運動

カンボジアでは今、健康ブーム。朝や夕方にはオリンピックスタジアムに集まって、バレエ、サッカー、エアロビ、特に若者はヒップホップや韓国の音楽で踊ったりしている。



カンボジアはいま空前の日本企業の進出に沸いています。

1991年3月にSVAがプノンペンに事務所を開設した頃、カンボジアはソ連東側諸国の援助がストップし、国家経済は破綻、国民のほとんどが貧困ライン以下の生活をする中、暴動が頻発していました。

パリ和平協定に従い、1993年5月に国連カンボジア暫定統治機構の下で歴史的な国民総選挙が実施され、9月に新政府が誕生。カンボジアは国際社会の支援を得て新しい国作りが始まりました。多くの国際NGOが活動を開始し、カンボジアのNGOも誕生します。カンボジアは紆余曲折を経ながらも、5年ごとの国民総選挙を国際選挙監視団の下で実施。与党人民党が選挙で議席を伸ばし、政治的に安定するとともに、2004年のWTO加盟後は4年連続して10%を超える経済成長を遂げ、世界金融危機で一度は落ち込んだものの、昨年は6・7%の成長を回復しました。

20年前、日本への直通電話が2本しかなかったプノンペンですが、今や全国で携帯電話加入者数が人口の半数の700万人を超え、インターネットも普及し、英語学校が地方の町にできるようになりました。車とオートバイの急増で交通事故も急増、プノンペンでは朝夕、交通渋滞が起きています。国際NGOの数も数百に上り、カンボジアのNGOは2000を超え、と言われています。NGOは格差の是正や民主化を促進する上でカンボジアになくはない存在になっています。

(アドバイザー 手束耕治)

## 数字でみるカンボジア

181,000Km<sup>2</sup>

国土の面積は、日本の2分の1弱  
(外務省調べ)

1480万

国民の人口は日本の10分の1  
1974～79年にかけて生まれた人たちの人口が  
少なくなっており、この時期はポル・ポト政権下の  
時期(1975～79年)と、ほぼ一致する。  
大虐殺、都市の無人化・農村への強制移住、  
集団生活化などの政策実施が、当時の出生率を  
大きく低下させていたことが推測できる。  
(2009年 UNESCO 調べ)

77.6%

成人における識字率  
(2008年国勢調査調べ)

40校

大学の数  
公立大学10校、私立大学30校。  
(2008年カンボジア教育省調べ)

62歳

カンボジア人の平均寿命  
(2009年ユネスコ調べ)

813\$

1人あたりの国民総生産 GDP  
日本円にして63000円ほど。  
(2010年 IMF 調べ)

273件

縫製工場の数

縫製産業は90年代初頭～2000年代の経済成  
長の中で急激に成長した  
唯一で最大の製造業であり、  
最大の輸出産業である。

カンボジアでは就業人口の約8割が農業に  
従事しているが、縫製業が急成長した結果、  
同国の全輸出の83.5%が縫製品で、  
履物(3.7%)とその他繊維製品(1.0%)を含めると  
全輸出の88.2%を占める。プノンベン郊外を  
中心に2010年末で273の縫製工場があり、  
農村部からの若年女子労働者を中心に  
31万9000人を雇用している。  
(2010年ガーネッシュ・パートナーズ調べ)



我が家のキッチン。今日のお昼は、焼き魚、  
魚と白菜の炒めもの、ご飯です。

チェア・クウンです。いまから31年前にカン  
ボンスプー州からプノンベンへやってきました。  
都会には仕事がたくさんあると聞き、成功のチャン  
スを信じて、田舎を飛び出しました。こちらで  
暮らすようになり、まもなく息子が2人、娘が1  
人生まれました。

今は、市場で電気器具や建設道具などの  
販売をしています。

おかげさまで息子たちはそれぞれ大学を卒  
業し、就職しました。一番下の娘は大学生。こ  
ういご時世なので、大学を卒業してから職に  
就けるかどうか、すこし心配しています。

子どもたちには、出世して、より良い家庭を  
築いてもらいたいです。



今日のお昼は、カンボジア風発酵した魚、  
ナス、いんげん豆、焼きカエル、ご飯。

キー・トックです。農家をやっております。  
農業だけでは家族6人を養えないので、夫  
は建設作業員やバイク・タクシーの運転手として  
出稼ぎにでています。子どもたちは育ち盛りで、  
いつもお腹を空かせています。

ター・スネー村には祖父の代から暮らしてき  
ましたが、この家はアンコールワット遺跡を管理する「  
アプサラ機構」の地域内に建っているので、い  
ずれ立ち退きを迫られるかもしれません。この家  
を追いつ出されたら住む場所がありません。もち  
ろん新たに土地を買うお金などどこにもありませ  
ん。

カンボジアがもっと経済発展をして、子ども  
たちがちゃんと教育を受け、仕事に就けるよう  
になるように願っています。



今日のお昼は、スープ、ご飯、唐がらし  
入りの魚ペーストです。

ミアン・チュンリーです。10年ほど前、新し  
い人生を求めて、プレイベン州からプノンベン  
にきました。母子ふたりでがんばっていますが、  
ここでの暮らしは楽ではありません。

毎日ごみ山からリサイクルできる物を探し集  
め、中間業者に売って生計をたてています。

私は心臓の病気を抱えていて、仕事があま  
りできません。最近は足も痛いのですが、原因  
は分かりません。

息子は私の仕事を手伝ったり、私の具合が  
悪いときは看病したりして、学校を休みがちで  
す。無事卒業できるのか心配です。

病気が治るように祈り、日々を生きています。  
大きな夢は持てませんが、せめて息子にはいい  
仕事を見つけ、将来幸せになって欲しいです。



### 都会で暮らす チェアさん一家

- 家族構成  
父：チェア・クウン(67)  
母：ソック・チェア(59)  
息子：チェア・パット(29)  
チェア・ター(27)  
娘：チェア・ダヴィ(21)
- 住まい  
プノンベン市チャムカモン区  
トゥルトムボン在住
- 収入  
月收入400ドル程度  
(子どもの収入を除く)



### 農村で暮らす パットさん一家

- 家族構成  
父：パット・バル(31)  
母：キー・トック(33)  
息子：パット・ロック(13)  
パット・ホウト(8)  
パット・ベアク(4)  
娘：パット・ソパート(2)
- 住まい  
シェムリアップ州  
ター・スネー村在住
- 収入  
夫の出稼ぎの収入は不明



### スラムで暮らす ミアンさん一家

- 家族構成  
母：ミアン・チュンリー(47)  
息子：ミアン・プロン(12)
- 住まい  
プノンベン市チャムカモン区  
ブーム・ルセイ・スラム在住
- 収入  
月收入80ドル程度



# 人びとの暮らし

首都プノンベン市で店を営むチェアさん、地方で農業を営むパットさん、  
プノンベン市のスラム地区で暮らすミアンさん。  
SVAが活動する地域で暮らす3家族を訪ねました。  
経済発展は、都市生活を豊かにしましたが、農村やスラムには、その恩恵が及んでいないようです。

# カンボジアの 人びとと共に



事務所開設当時、政情も落ち着かず、内戦で人びとの心は疲弊していました。そんな中、カンボジアの復興を志す教育行政担当者と連携し、SVAは図書館活動、学校建設などのプロジェクトを進めて来ました。熱心な担当者の協力で、「おはなし」を通して子どもたちに読書の習慣が広がり、根づいてきています。



### 学校建設

●1991年、プレイバン州プレサデック村に建てた小学校からスタート。子どもたちが楽しく学び、未来に夢を持つ学校にするため、地域の人々が計画から建設までの過程に参加する学校建設。  
●2010年までに217校の学校を建設し、必要な施設や資器材の提供を行った。また、26校の校舎修復も行った。

### 図書館建設と 住民参加の図書館運営

2012年から図書館に関係する新しい事業が始まります！

- 「ドリーム小学校」事業：これまでの小学校の校舎建設に併せ、学校図書館の建設を行います。現在、教室数が不足しており、学校図書館のない学校が対象となります。教育のアクセスだけでなく、教育の質の向上も目指し、より包括的に教育の支援を行います。
- 「住民参加による学校図書館運営」事業：既に学校図書館としての基礎がある（図書室が一応ある等の）学校で、図書館としての機能が不十分な学校を対象に、学校図書館の運営面の支援を行います。現在ある学校図書館がより効果的に使われ、子どもたちが活用できることを目指します。
- 「コミュニティ図書館」事業：カンボジアの農村部では多くの成人が文字を読む機会がありません。そのため、成人も対象に含む、コミュニティ図書館の事業を始めるための調査を開始しています。来年も引き続き調査を行い、来年中に事業の立ち上げを行う予定です。

### 絵本・紙芝居出版・配布

- 1993年、絵本1タイトル目「シヴァ神のワシ」は厚紙に白黒印刷。多色刷り、天然色印刷となる。2010年までに104タイトル、31万8000冊のクメール語の絵本を印刷、11州の図書館や小学校に配布。
- 紙芝居1タイトル目は1994年、「目の見えない人と足の不自由な人」。2010年までに40タイトル、3万4375部のクメール語の紙芝居を印刷、11州の図書館や小学校に配布。



### 全国おはなし大会

●教員がそれぞれ工夫した読み聞かせを披露する大会。1995年から毎年開催し、計約2,600人の教員などが参加。



### 移動図書館活動

●1993年開始。プノンベン市内、近郊の小学校、孤児院などを訪問。熱心だったダイアット小学校に絵本を寄贈し、常設図書館活動を支援。2010年には、バンティミンチエイ、コンポントム、シェムリアップを中心とする小学校で165回の移動図書館活動を展開し、4万3360人の子どもたち、教員、コミュニティの人々が参加。



### スラム移動図書館活動

- 2006年からプノンベンのスラムと再定住地で実施。2010年は2万424人が参加。
- カンボジアのスラム事情：SVAが支援する11カ所のスラムは、首都プノンベンにあり、事務所から車で30分から1時間ほどに位置し、計4478家族が暮らしている。スラムの生活は、仕事の機会も少なく、安心して飲める水や電気もなく、十分なトイレもない。衛生状態は7月～11月の雨季になると特に悪化する。子どもたちは、きちんとした教育を受ける機会もなく喜んでいる。



### 過去に終了したプロジェクト

#### 国内避難民キャンプに慈愛の衣類配布 (1991)

- 1980年代に日本で集積所となる寺院が衣類を集め、タイ国境難民キャンプに贈る「慈愛の衣類を贈る運動」を国内避難民支援として実施。
- 当時カンボジアはまだ内戦状態、国内避難民が約20万人にあり、各地に国内避難民キャンプがあった。

#### 日本・カンボジア友好職業訓練所完成 (1992)

- 印刷・出版を通してカンボジアの文化・教育の復興を目指した最初の事業
- 同訓練所の印刷部門は日本人専門家の厳しい指導の下、当時カンボジアで最高の印刷技術との評価を得る。3月よりカンボジアに展開したUNTACの大量の広報、選挙関連の印刷物の注文を引き受け、1993年5月の国民総選挙の成功に貢献。その後、各種訓練部門に青年海外協力隊、シニアボランティアを受け入れ、日本政府とNGOの協力のモデルケースとなる。2003年にはSVAの支援も終了し、自立運営。現在SVAからはクラフトを発注。

#### パーリ・クメール語 トリピタカ (南伝大蔵経) の複製、配布 (1995)

- 仏教聖典で最も大切なトリピタカの贈呈式はシハヌーク国王 (当時) 臨席のもと国家式典として開催され、全国の寺院、関係機関に配布された。
- プノンベンで行われたトリピタカの贈呈式は一大イベント。カンボジアは国会を休止して、シハヌーク国王夫妻、閣僚等が出席する国家式典となった。

#### クメール語図書複製事業

- 2010年までに、仏教書籍を中心に154タイトル、89万1022冊の本を複製し、カンボジア全国の寺院、仏教学校、関係省庁・機関、図書館などに配布。ポルポト時代に壊滅的な打撃を受け仏教教育、仏教文化の復興に貢献。

## 子どもたちが大好きな 「おはなし」は 良い学校作りの柱

ナット・ブンルアン氏  
カンボジア教育青年スポーツ省次官



地方の農家の生まれの私は13歳の時に両親のもとを離れ、お寺で寺小僧をしながら学び、故郷で先生となりました。ポルポト時代が終わってからもカンボジアの教育の復興と発展のために情熱を持って働いてきました。

図書館活動、特に「おはなし」は自分たちの文化を知り、アイデンティティを保つことに欠かせません。子どもたちは「おはなし」が大好きです。「おはなし」は子どもたちを学校に引きつけ、コミュニティと学校を結びつけます。これは教育省の基本政策「チャイルド・フレンドリー・スクール」(子どもたちに親しみのある学校作り)に欠くことのできないものです。

■誠実でオーブンな人柄のナット・ブンルアン氏は教育省や海外の援助機関の人々からの信頼も厚い。SVAの活動の最大の理解者であり、よきアドバイザーである。(聞き手・手塚耕治)

## 図書館は知識の宝庫、 子どもたちの心と知識の 発達に欠かせない

カエム・ソヴァン氏  
前バンティミンチエイ州  
教育局初等教育課課長



2010年2月に退職するまで13年間、バンティミンチエイ州教育局で課長を勤めてきましたが、一番うれしかったことはSVAとの出会いによって小学校に図書館活動が普及したことです。

SVAは2004年にバンティミンチエイ州で図書館活動を開始しましたが、それ以前、州内の小学校に図書館活動はほとんどありませんでした。SVAは図書や教材の配布だけでなく、図書館員の養成もしてくれました。私も自ら率先して研修会に参加し、州教育局のスタッフや学校と緊密に協力し、図書館活動は自分たちの仕事と思って全力で取り組みました。

最初はみんな図書館活動について知らないで苦労しましたが、やがて子どもたちに読書習慣が身につく、自分たちで学ぶようになり、学んだ知識で行動や行いが変わってくるのを見て図書館活動が広がってゆきました。





事業運営を担うカンボジア人コーディネーターは10年以上勤務するベテラン揃い。カンボジアのために尽力しています。

16年間にわたる教育支援の経験から、多くの課題を目の当たりにしています。

最近特に気になっているのが、小学校教育における就学数減少の問題です。

大きな原因は、カンボジアの小学校の劣悪な学習環境です。最近のデータによると、既存の学校のうち約半数しか教育省の定める基準の校舎を持っていません。図書室はおろか、トイレ・給水のための井戸・貯水タンクがなかったり、教科書が不足していたり、さらに教師の数や質の問題など多くの問題を抱えているのが現状です。

私は、このような状況をどうにか変えたいと思っています。この国の将来をつくる子どもたち、その子どもたちに少しでもよい教育の機会を与えることが使命であると考えています。

ユン・ヴィスナ (46)

学校建設担当。カンダール州出身。内戦時89年インドネシアへ渡り難民キャンプに収容。帰国後 UNTAC (国際連合カンボジア暫定統治機構) 勤務。95年 SVA 入職。



Q.

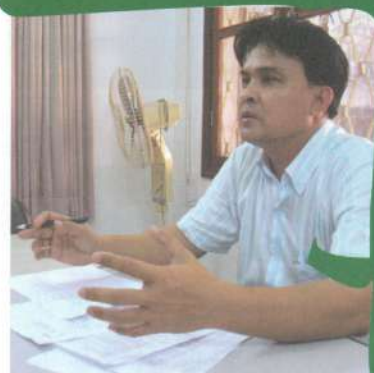
いま、カンボジアがかかえている課題をおしえてください。

最大の懸念は、依然続く識字率の低さです。政府や多くのNGOの取り組みにもかかわらず、識字率は上がっていません。カンボジア人は読書が嫌いなのだと思われるかもしれませんが、そうではありません。カンボジアで読書をする人が少ないのは、ただ単に「多くの人が字を読めない」からです。字を読みたいと願っても、読み物

にアクセスするお金、時間、手段がないのです。

カンボジアには図書館がほとんどありません。特に地方は皆無といってよいでしょう。その数少ない図書館でさえ、新しい書籍を買う資金がなく、利用者が利用したい時間帯に閉館しているというありさまで。

私の望みは、「すべてのカンボジア人にとって、読書が生活の一部になること」です。そのために、①ブックフェスティバルやおはなし大会など読書奨励イベントの開催を後援 ②奥地の村への無料の読み物の配布 ③マスメディアを使って読書を奨励させるよう政府に働きかける ④村長や僧侶などの影響力のある人たちへの働きかけ、などの施策を考えています。



ハム・ヴィチェット (44)

図書館事業・スラム事業・文化事業担当。フノンベン出身。75年強制退去させられ、内戦時のタイ国境でのサバイバル生活を経て85年、難民キャンプへ入る。UNTAC勤務などを経験、94年 SVA 入職。

現在のカンボジアの教育分野の課題は、教師の「質」と考えています。

その原因はまず「資格」の問題です。地方の小中学校では、大学の教育学部を卒業していない教師が大半。彼らには「教える」という基本的な力が備わっていません。

次に「制度」の問題。教育学部を卒業した教師でも、都市部と地方では、その能力に大きな差があります。いい成績で卒業した者の多くは都市に赴任し、地方に赴任した成績の良くない者も、3年の勤務の後、多くは都市から自らの故郷の学校に転勤を選びます。この結果、地方の教師は質も低く、いつも不足することになります。

もうひとつが「報酬」の問題です。教師の給料は非常に低く、家族を養えないほどです。特に地方の教師は、農家や運転手などとかけもちするしかなく、教職に専念することができません。

このような問題を解決するための具体案として、教える技術を向上させる教師の訓練センターをつくること。

議論の余地があるでしょうが、このこと抜きに教師の問題の解決はできないのではないかと、思っています。



スー・ソホン (46)

総務担当。フノンベン出身。75年の強制退去にあい強制労働所を転々とする。その後貧困と戦いながら学業に励み、94年より鉱工業エネルギー省勤務。97年 SVA 入職。

未来を築くお手伝いを

図書館活動はライフスキルの育成につながる



カンボジアは過去10年の平均GDP成長率が平均9.0%(99~09)※1という急激な経済成長を遂げています。一方で、国の貧困者比率は30・14%、地方の州では50%を超える地域も見られ、経済格差や貧困層の生活向上が大きな課題となっています。※2 初等教育分野においては、純就学率は95・6%(2010~2011)、6年生までの残存率は61・2%と緩やかな増加にあります。※3しかし、小学校から中学校への純就学率は33・9%に留まっており、小学校を修了する児童も地域によっては半分以上も満たない状況です。※4 国全体の識字率は改善している地域ごとに見ていくと悪化している地域もあり、それらの地域は前述の貧困地域とも関連しています。

項目にあげられるようになりまし。今では6670校近くある学校の半数が学校図書館活動を開始し、「開かれた学校図書館」として、学校内に留まらない地域住民も含めた「図書館」の可能性の広がりが期待されています。学びのすべてにおいて基礎となる読み書き能力を学校できちんと習得する、また習得した学びを卒業後も維持していく、ということは「読み物」が皆無に等しい地方のカンボジアにとっては大きな挑戦です。

一方で、本の可能性というのは、学習向上だけではなく、人が生きていく中で不可欠なライフスキルの育成にもつながるという点を強調していく必要があります。近年の急激な経済成長は、生活を良くする一方で、競争社会という厳しい面もあります。必ずしも物事は公平に進まない、そんな葛藤に社会の底辺にいる若者たちは直面しているように感じます。

「ほら、あの家を見てください」ビニールシートで覆った屋根や壁の家が連なる中に一件のコンク

リートの家。  
「あの家主は我々をだまして富を得たのさ。真面目に生きるものが損をするのさ」。

スラムの住人のそんな言葉が胸を突き刺さりります。

より厳しい生活を強いられる子どもたち、人々へとサービスを届けていくこと、カンボジア人のアイデンティティーや仏教精神に基づいた道徳倫理観、悲惨な歴史の過去を背負いつつ、これからの未来をどんなふうにも築いていくのか、若い世代が考えるきっかけになるようなお手伝いが、図書館活動を通じた教育支援の中でできたらと願っています。

限られた環境の中でも、本は様々な世界へと扉を開いてくれます。「読むこと」が楽しみになり、それぞれにとって生きていく上での希望を見出す大切な1冊を見つめられる、そんな図書館活動をカンボジアに展開していくことがこれからの私たちの新しい試みです。

(カンボジア事務所長 山本英里)

(1) [http://devdata.worldbank.org/MAG/hm\\_sag.pdf](http://devdata.worldbank.org/MAG/hm_sag.pdf)  
 (2) JICA (委託先 OPIMAC 株式会社)、カンボジア王国貿易プロファイル調査 (アジア) 最終報告書 (2010年8月)、p.19  
 (3) Ministry of Education, Youth and Sport, "Education Congress Report on The Education, Youth and Sport Performance in the academic year 2009-2010 and the academic year 2010-2011 goals", 22-24 March 2011, p.13  
 (4) Ministry of Education Youth and Sport, "Education congress report on Education Youth and Sport Performance for the last year and next year goals" March 2010, p.18

カンボジア  
Cambodia

衛星校の挑戦  
子どもたちに絵本を!  
朝の読書が始まった

春号で1教室のチュムニツク小学校が教室に本棚を置いて文庫活動をスタートさせたことをお伝えしました。4月下旬から5月中旬にかけて、衛星校最後の研修会があり、この小学校からも先生2人が参加しました。しかしその後、村外から通っていた先生は、雨



ニヨム先生が辞めたので、残った先生は2人。ソック・リー先生(右)とソック先生(左)



研修会で熱心に聴講するソック・リー先生



配布された180冊の絵本を整理

期に入り通うのが困難となったので、とうとう辞めてしまいました。

残ったソック・リー先生は困りました。契約で給料は少ないうえに、7月末に学校が終了してから、1年分まとめての支給です。土地もない一家は全員で他人の牛を預かって面倒を見たリ、カエルやココロギヤ魚を取ったりして、何とかしのぐ最貧困の生活状況の中にありました。生まれつき体の弱い先生は自分一人で図書館活動を担ってゆくことに重荷を感じ、くじけそうになっていました。

これはなんとかしなければいけない。私たちは6月11日に学校を訪れ、SVAが研修会で配布した新しい絵本をいっしょに整理し、先生の負担を少なくするため、とにかく読書活動だけに集中してやってみようとお話し合いました。学校に本は置いておけないので、先生の家から毎朝運んで、学校の本棚に置く。朝7時の国旗掲揚と国歌斉唱が終

わつたら、15分間、先生も一緒になって生徒全員で朝の読書を来週月曜日からはじめることになったのです。

7月、先生から「朝の読書が続いています。子どもたちが明るくなり、学校に来る子どもたちの数も増えました。」とのうれしい知らせがありました。

このチュムニツク小学校は私たちが特に気にかけている学校の一つです。貧困地域にあり、速く離れていくため、外部から先生が来たらがらず、正教員は中心校に1人だけ、あとは全て1年ごとの契約教員という、州内で一番状況が悪いと言われている学校だからです。もしこの学校に図書館活動が根つき、教育の質が向上すれば州内の、ひいてはカンボジア全ての学校でそれが可能と言えるでしょう。チュムニツク小学校の貧困と闘う図書館活動を支えることは私たちの挑戦でもあります。

■アドバイザー 手束耕治

図書館運営をもっと住民主体に——そんな目的で始まったコミュニティ図書館のマネジメント研修が、5月7月にかけて全7キャンパスで実施されました。図書館委員会、教育部会、カレン青年同盟など各キャンパスから平均20人が参加。「コミュニティ」「図書館」「マネジメント」という概念を押さえて、公共サービスとしての図書館をじっくり考える機会になりました。

電気が使える2カ所では、プロジェクトでスライドを映し講義をしましたが、その他ではスライドを印刷して「紙芝居」風にしたり、模造紙に書き出して対応。グループワークでは、住民の読書ニーズを知るために簡単な調査フォームを作り、それを持ってさっそくキャン

プ内で聞き取りをし、持ち帰った結果を発表という流れになりました。参加者の関心は年齢によつて違い、やはり30代以上の人たちは既に様々なキャンパス業務を経験しており、公共施設としての図書館の役割や機能に関心を示す発言が目立ちました。一方、20歳前後の青年同盟メンバーたちは、メモを取ったり、図や文章で模造紙に記録するなど実務的な部分を担ってくれました。

■プロジェクト・マネージャー ジラポーン・ラウイリン

グループで輪になって話しあいも



お揃いのポロシャツで結束を深める

ラオス  
Laos  
2012年度計画と年次セミナー

7月7日と8日、ヴィエンチャン郊外のヴァンヴィエンで、ラオス事務所年次セミナーを開催しました。主な目的は、来年度計画の策定です。事前に各セクション内で会議を重ね、今年度上半期の振り返り、課題、改善すべき点、来年度の活動と予算計画案を発表し、意見交換をしました。

「ラオスの子どもたちの教育を改善する」という、ひとつの目標に向かって、今後事業改善に努めてまいります。

■所長 伊藤解子

ミャンマー (ビルマ) 難民  
Myanmar (Burma) Refugee Camps  
図書館マネジメント  
研修始まる



グループで輪になって話しあいも

今年度からナンガハル州の公共図書館の支援を始めています。公立図書館は同州に5館あり、常勤の図書館員が1人ずつ配属されています。大人向けの図書はありますが、子どもの本や児童スペースはありませんでした。

今回の支援は、公共図書館を管轄する同州情報文化局からの要請を受けて、移動図書館活動、図書館員の研修、子どもの本と備品(書架やテーブル)の供与を行いました。図書館員は基本的な司書研修はすでに受けているので、当会は、読み聞かせなど児童サービスについての研修を行いました。そして、ついに5月下旬に各公立図書館に児童用の読書スペースがオープンしました。

■所長 三宅隆史

タイ  
Thailand  
移民学校教員への研修会  
教員の姿勢とは



研修会を終えて修了証を受け取るサナトウイさん

タイ語とミャンマー語を使って、絵本の楽しみ方、読み方、廃材利用の教材作りを伝えました。この研修会の目的は、まずは参加者が楽しむこと。どんなに楽しくても面白い活動や絵本でも、提供する人が楽しんでいないと子どもたちが楽しく感じることがありません。

竹の壁と床、ニッパ椰子の屋根の小さな教室に子どもたちがあふれ、教科書や教員の給与にも事欠くようなサナトウイさんの学校。それでも子どもたちの真剣に考え、環境を良くしようという目を輝かせて話してくれた彼女に、スタッフは研修の成功を喜び感銘を受け、子どもと向き合うことの重要性を改めて学びました。

■国際部コーディネーター 松尾久美

アフガニスタン  
Afghanistan  
公立図書館に  
児童スペースが  
オープン



情報文化局内の公立図書館の児童用読書スペース



# 東北だより

第一報  
2011年夏~秋

いわてを走る  
移動図書館  
プロジェクト



東日本大震災救援活動の様子をこれから毎号お知らせします。岩手県遠野市の岩手事務所が6月にオープン、7月17日から移動図書館活動を始めました。気仙沼事務所、岩手事務所ともに、現地採用の新人スタッフが入り、地元と共に復興に向けて歩みを進めています。



(上) SVA 岩手事務所は遠野駅から車で15分ほどの郊外  
(中) 1階は倉庫。本棚の組み立てにあたった3人  
(下) 机や本棚、コピー用紙など必要な備品がつつぎつづいた

## 岩手事務所オープン!

6月6日にSVA岩手事務所が岩手県遠野市にオープンしました。事務所として借りた場所は、元縫製工場。事務所はもろろん、2万冊近い蔵書を置く倉庫のスペースも完備。当時のスタッフが使っていたお手洗いや4室あります。ただ工場は数年前に閉鎖されてからの出入りがなかったため、最初の1週間は床拭きなどの掃除や壁紙はやりを行いました。次の週は倉庫の本棚70セットをひたすら組み立て、3週目は本棚を地震から守るため耐震のつっぱり棒の設置や本の受け取りと整理。4週目には本1冊1冊のバーコードを読み取り、貸出シールを貼る作業をしました。この1カ月、事務所としての「形」を作る手伝いをしてくれたボランティアの皆さまに御礼申し上げます。図

書館活動で一番の鍵になるのが「人」です。岩手の人と一緒に活動をしてほしいから、図書館担当スタッフ2人、経理・総務担当1人を岩手で採用しました。東京から赴任した古賀東彦、現地責任者と一緒に沿岸部を、本を持ってまわります。ぜひ、事務所にお立ち寄りください。(広報課長兼岩手事務所図書館事業スーパーバイサー 鎌倉幸子)

## 「立ち読み、お茶飲み、おたのしみ」が合言葉 図書館車が岩手を走る

7月17日(日)午前8時過ぎ、また名前もない移動図書館車が岩手事務所を発進。「いわてを走る移動図書館プロジェクト」がようやく始まりました。軽トラックに本棚を積んだプチ図書館車を先頭に、4台の車がスタップ、ボランティア計12人が分乗し、陸前高田市へ向かいます。岩手県沿岸部に本を。寄贈を

受けた1万5000冊あまりの本から、約800冊の絵本、コミック、小説、料理本などを運び、初日は、竹駒、高田、広田、小友の4地区の仮設住宅を回りました。最初にやって来てくれたのは、子どもたち。「何やってるの?」「マンガ読んでいい?」「わたし、絵描く」。子どもたちはしゃきしゃき声かき水に、その後いろいろ



いわたを走る図書館プロジェクトが行うのは本の貸し借りだけではなく、手にした本をきっかけに、みなのお話が広がります。本についてのこと、3月11日に体験したこと、昔のあたりに嫁いできたころの話、おしゃべりの内容はさまざま。滞在予定の1時間があるという間に過ぎていきます。これからは、車も大きくなり、積んでいく本の数も訪れる仮設住宅の数も増えていく予定です。でも、初日に感じた新鮮な気持ちを忘れずに取り組んでいきたいと思えます。(岩手事務所現地責任者 古賀東彦)

## 声 気仙沼から



気仙沼市本吉町蔵内地区のオイカワテニム自主避難所(7月24日に解散)の代表だった三浦兼男さん。カジキ漁の漁師で、今回の震災で船を失った。震災直後には、40人ほどの人たちが自宅に受け入れた。それからの136日間を振り返る。



三浦さんが提供した土地に建てられた仮設住宅

### 一度は助からないと思った

大勢の人が集まった。班編成や輪番制を組み、物資の仕分けを行った。毎日、避難所にいる人たちや自宅に避難している人たちと顔を合わせ、安否の確認をするとともに意見を聞いた。

避難者との最初の共同作業は、3月19日、春の彼岸に向けた共同墓地の清掃だったという。「やれる人からやりましょう」と声をかけた。不満も出たが、「綺麗になったね。良かったね」と笑顔がもれたとき、これはと思ったそうだ。

炊き出しもなるべく皆で集まって食べ、お花見会の企画もした。会話が飛び交うようになった。「一人では何もできない。必ず支え合ってできる。お互いに助け合って、つねに話合っ、それを分かちあっていかなば」と語る。

### 「必ず立ち直ります」は、この合い言葉だから

8月16日には、「蔵内漁港復興祭」を行った。「元気になることが、支援してくれた人たちへのお返しだ」という。

「祖父は、昭和8年の三陸大津波を経験し、高台へと家を移した。昭和の津波に遭っていない人が今回被災した。また、このような悲惨な目をこの子どもたちに遭わせないように、この教訓を語り、孫たちのことを考えたまちづくりをしていかなばならない」(聞き手:気仙沼事務所 里見容)

自主避難所 行政の指定ではなく、住民が自発的に作った避難所。市に申請し認可を受けて行政から支援物資を受け取ることがある。

オイカワテニム 有名テニスマーカのレンタルなど、テニムの縫製を手がける。4月初旬、地元と協力して発電機をレンタルし工場再開にこぎつけ、電気が供給されるまで自家発電で稼働していた。

## はじめまして



気仙沼・岩手事務所の新人スタッフです。地域に根づいた活動ができるよう、地元の人材を採用しています。

## 3月11日は気仙沼市場前で仕事をしました。

目の前で次々と起こる信じられない光景を目の当たりにし、人の力の非力さを痛感しました。家族と連絡が取れずに過ごしたあの夜は、今まで一番長く、寒い夜でした。幸いにも家族全員が無事で、娘の顔を見た瞬間、足の力が抜け泣き崩れたのを覚えています。今後、私のように気仙沼に移り住む人と呼び込むにはどのような形で復興していけばいいのかを常に考え、子育てをしやすく、自然と共存したバランスのいい地域になるように地元の方々の力を借りながら、日々前向きに生活しています。

一人の力には限りがあります。皆で力を合わせれば夢が叶うという事が日々肌で感じられるこの地域です。先はまだまだ見えませんが、

必ず夢は叶う! そう信じて生きていきたいです。明るい未来になるよう、これからも皆さま協力お願いします!



気仙沼事務所 笠原一城  
宮城県栗原市出身、31歳。サーフィンと出会い、三陸の水の色、景色、波のクオリティに惚れこんで、2010年10月、仙台から妻の実家のある気仙沼に移り住む。

## 被災

被災当日は釜石市にいました。地震が起きた後、津波が来るとは思っていませんでした。来たとしても、小さな津波だと思っていたので、驚かされました。

私は山に逃げて無事でしたが、津波が大槌町を飲み込んだのを目の前でみました。その後、火事が起きて大槌町はほとんどが燃えてなくなりました。震災から1カ月は生きた事の有り難さと親戚の人と共に生きる事だけのために必死でした。勤務していた大槌町図書館は、震災で壊滅的な状態になり図書館は取り壊されます。今後、被災者は避難所から仮



岩手事務所 田中明博  
岩手県大槌町吉里吉里地区出身。在住。38歳。大槌町立図書館の非常勤司書。中学校の英語講師などを経て、現職。

# 本から 本への プロジェクト

30万冊の古本を1万冊の絵本に!  
SVA30周年記念事業として、  
本・CD・DVD・ゲームソフト  
30万点を集めて、  
現地語の絵本を出版します。

急募

本やCDを送ってください。  
まずはSVAにご連絡を!!

現在、カンボジア(3,000冊)、ラオス(3,000冊)、アフガニスタン(2,400冊)の絵本の出版に向けて準備を進めています。12月10日に東京で開催する30周年式典で出版された絵本のお披露目をしたいと思っております。

1~3月は毎月1万点以上集まっていたのですが、東日本大震災以降落ち込み、8月末で集まっているのは9万点ほど。

1年間で30万点(25,000点/月)という大きな目標に少しでも近づけるように、ラストスパートです。1人1人の取り組みで集まる冊数が大きくなってきます。みなさまからのご協力心よりお待ちしております。

(国内事業課 神崎愛子)

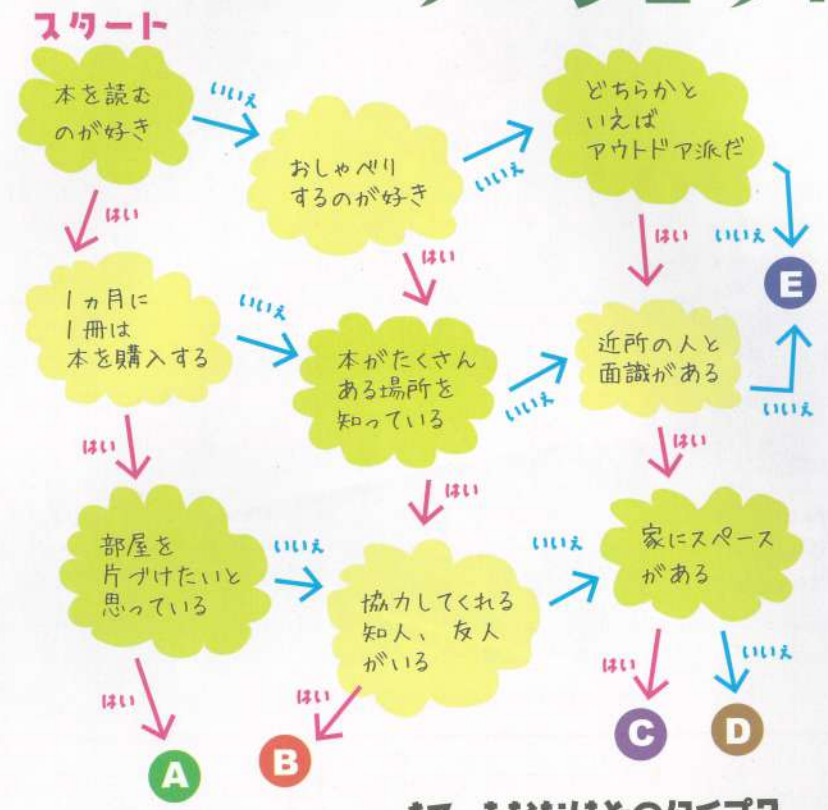


ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ事務所で30周年絵本が完成!

## 「ギョロちゃん」とリスくん

カレン語 1,000冊  
ビルマ語 1,000冊

【あらすじ】 ジャングルの大きな湖に滝がありました。女の子はそこで小さなリスに出会いました。毎日遊んでいるうちにとても仲良しになった女の子とリス。身寄りのないリスは女の子の家に家族として一緒に暮らすようになり、どんな時も一緒にすごしました。女の子が学校に行っている間、リスはジャングルに遊びに行くようになり、帰りが遅くなるようになりました。女の子はリスが速く行ってしまうのではないかと心配しています。とうとう、暗くなってリスが帰ってきません。女の子は泣きながら外に探しに行きました。すると……。



## さて、あなたは何のタイプ?

### A お掃除さんタイプ

本が好きなのに本棚に読みかけや読まない本が積まれていますか? 読まない本は思いっきりクリアランス。年末に向けて部屋を片付けながら本を出してみよう!

### B トモガチ作戦タイプ

お給料はほとんど本代に消えていくという本好きな人、音楽好きで今は iPod を使っている人いませんか? 本やCDを持っていそうな友人、知人に声をかけてみよう!

### C ご近所イキイキタイプ

ご近所の方と日ごろから交流をもっているのは大切な本を集めてご近所力、友達カマッパに。ダンボール箱を設置して地域の集積所になってみよう!

### D お祭りだータイプ

人と人とのつながりが大好きなあなた。参加する時は本やCDを持参してもらおうように企画を立ててちらしを作成のイベントを開催して本を集めてみよう!

### E アジアの図書館ポーター、会員、クラブ・エイド、絵本を届ける運動など他の方法でも活動に参加できます

# Shanti

55 清水誠勝  
Shimizu Seisho  
しみず・せいしょう



(上) 清水誠勝さん (中) 津波で流された山田町の町並み (下) 龍昌寺本堂

## 山田町とアジアの交流で支援へのお返しを

「たとえ被災してもラオスの支援は続けます。SVAに共感しているからです」。

岩手県下閉伊郡山田町・龍昌寺住職の清水誠勝(59)さんは、長年にわたり、SVAの活動を通してラオスの子どもたちの支援を続けてこられた方である。

3月11日、高台にある龍昌寺は難を逃れたが、坂の下の町は津波によってすっかり流された。すぐに寺の庫裏の2階を避難所として開放し、檀家さんを受け入れた。犠牲者のご遺骨が次々に運び込まれ、4月には162人の御霊の合葬を行った。

寺に避難していた人は、3月末

は70人、6月末現在は14人に減りましたが、今になって苦しい胸のうちを明かすようになったという。

「津波から逃げる時、助けられなくて、と言われて、助けられなかった。それが頭に残って眠れない人、精神的に不安定になっていく人が多いんです。亡くなった方々の供養も大事ですが、こうした人々の心のケアも和尙として大事な仕事だと思っています」。

もう一つ清水さんが気になっているのは、震災に際して世界中からいただいた支援にどうお返しをするかということである。

もともと幅広い視野や関心を持ち、行動的でもある清水さん。山

田町の国際交流協会を立ち上げ、SVAを通してラオスの識字教育の支援を推進してくださったのも清水さんである。

24、5年前からはポリーイスカウトの役職も担い、他にも山田町の伝統芸能「虎舞い」の保存にも力を入れ、かねてよりアジア公演ができないかと思案している。

SVAが実践してきた「アジア子ども文化祭」のことに話が及ぶと、「そういう新しい交流が、支援してお返しになるのかもしれないですね。失敗もあった方がいい。長い継続した交流、お付き合いの中から精神的なつながりを持ち続けて

いくことが一つのお返しにつながるのだと思います」。

そう語って、山田町とアジアとの新しい交流へ意欲を示された。

この秋には、山田町の国際交流協会主催で野菜や食料品などを持ち寄って恒例のバザーを行う予定である。「アジア識字教育支援募金(ラオス)」……。これもSVAを通して支援のためである。

「貧者の一灯ですから……。どうぞ末永くお付き合いを」。車で宮古の駅前まで送ってくださると、別れしなにこう言ってお別れされた。

(宗教法人担当・大菅俊幸)

## 休みの日は、ちょっと一息...



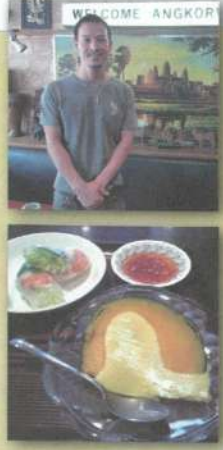
カンボジア出身の呉一家が経営するレストラン「アンコール・ワット」。内戦終了後も治安が安定しないカンボジアを出て、両親と兄弟5人で難民申請し来日、1982年に代々木でレストランを始めました。

カンボジア文化を伝えたいとの思いで本格的に作り直しましたが、当時はエスニック料理も珍しかったころ、ニンニクをふんだんに使う濃い味つけにお客さんがなじみず、ナンブラーの香りに近所からクレームが出たりしたこともあったそうです。日本人にも食べやすい味を工夫して、カウンターとテーブル3席の店は70席の広々とした客席がランチタイムはいっぱいになる人気店になりました。

2代目社長の呉修治さん(40)は10歳で来日。「資源が少ないから、日本人は他人に頼らずよく働くと感じます」。「カンボジア料理は辛すぎず甘くもなく癖がないので、日本人の口にあいますよ」と微笑みます。

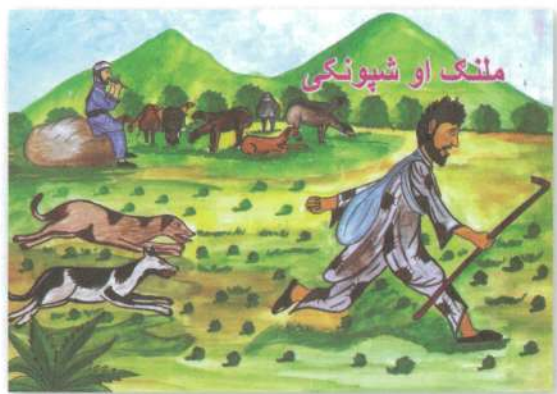
カンボジアの風景やアプサラ・ダンスの絵が飾ってある店内で、定番のクイティオ(細麺)や生春巻きなど、野菜たっぷりの料理を味わってみませんか? (広報課 清野陽子)

■カンボジア料理店「アンコール・ワット」  
渋谷区代々木1-38-13 住研ビル1F  
電話 03-3370-3019



## より良い絵本や紙芝居をつくるために、 評価活動をしました

SVAでは、昨年までに255タイトルの絵本と66タイトルの紙芝居をカンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタンの4事務所で開催しました。子どもの本が不足しているこれらの地域では、質よりも量が優先されてきましたが、今後は質も高めていかなければなりません。そこで今年5月、作家、編集者、図書館の専門家3人にご協力いただき、これまで出版した絵本、紙芝居を評価いただきました。



紙芝居「物乞いと羊飼い」。タイトルが小さくて見づらい。

これは、2010年、アフガン事務所が作った紙芝居の1枚目です。絵本作家のやべみつのりさんから、「紙芝居の1枚目のタイトルは、映画のタイトルのように、子どもがはっきりと読めるぐらい大きくしないといけない」との指摘をいただきました。このタイトルの文字は小さすぎて、はっきり読めません。

3人からは他にも、「何回か絵本、紙芝居のダミーを手づくりで作り、おはなしの流れや構成、レイアウト、文と絵の組み合わせ方を練り直す」「作るプロセス、体裁についての最低基準を示したガイドラインを作る」「民話を絵本や紙芝居に構成し、ダミーを作るためのワークショップを編集者（当会スタッフ）、作家、イラストレーターを対象に行う」など、たくさんのご意見をいただきました。

このアドバイスを元に、絵本、紙芝居の質を改善し、子どもたちにより良質の本を届けられるよう、努めています。

アフガニスタン所長 三宅隆史

## SVA30周年記念式典のお知らせ

30周年記念式典を下記の日程で開催いたします。

SVA30年を振り返りながら、東日本大震災支援に取り組んでいる今、そして未来へ向けた平和・共生社会の実現に向けた取組みを考える場となるよう、準備しています。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：2011年12月10日（土）SVAの日

会場：東京グランドホテル（東京都港区芝2-5-2）

第1部 イベント：13:30～16:30

SVAの歴史を振り返る映像上映とパネル・ディスカッション

第2部 懇親会：17:10～19:00

※お申し込みは同封のチラシをご覧ください。

担当◎海外事業課長 中原亜紀

## メラウ・メラマルアン難民キャンプでの 水害支援活動を始めました

8月3日、ミャンマー（ビルマ）とタイの国境にある難民キャンプの2カ所（メラウ難民キャンプ、メラマルアン難民キャンプ）において、大規模洪水が発生し、計338戸が被災、学校などの公共施設、食糧倉庫やSVAのコミュニティ図書館も被害を受けました。SVAでは、図書館再開、道路整備、児童への教育支援のために緊急募金を開始しました。詳しくは同封のリリースをご覧ください。

担当◎海外事業課ミャンマー（ビルマ）難民事業担当 鈴木晶子

## 人事のお知らせ

### 入職

#### 気仙沼事務所

笠原 一城 プロジェクト担当 契約スタッフ（6月21日付）

里見 容 広報担当兼経理総務補佐 契約スタッフ（8月1日付）

#### 岩手事務所

田中 明博 図書館活動プログラム担当 契約スタッフ（7月1日付）

千葉 りか 経理総務担当 契約スタッフ（8月1日付）

吉田 晃子 図書館活動プログラム担当 契約スタッフ（8月1日付）

異動 白鳥 孝太 気仙沼事務所現地責任者へ（5月1日付）

古賀 東彦 岩手事務所現地責任者へ（6月1日付）

鎌倉 幸子 広報課長から広報課長 兼 岩手事務所図書館事業スーパーバイザーへ（6月1日付）

## 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015  
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階

TEL 03-5360-1233

FAX 03-5360-1220

WEB <http://www.sva.or.jp>

E-Mail [info@sva.or.jp](mailto:info@sva.or.jp)

郵便振替 00150-9-61724

● 当会へのご寄付は、所得税、住民税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

「シャンティ」は、ノンVOCインキ（石油系溶剤0%）で印刷しています。

■「さっちゃんまほうのて」 私が小さい時に母親が読んでくれた絵本の一冊です。はじめて母親の涙を見たのは、この絵本だった気がします。もの心ついた頃から、人間の社会、人の強さや弱さ、大切なものや幸せとは何かを、絵本が教えてくれていたんですね（緊急救援担当 東さやか あずまさとや）

■「じじくのそうべえ」 日頃の行いが悪かった？そうべえと仲間たちが楽しく地獄を冒険します。落語が題材の話で日本の文化や価値観も伝えてくれます。最近は何歳さまを知らない子どももいるようです。（宗教部門担当 青島寿宗 あおしまじゅん）

■「100万回生きたねこ」 この本について語れる程自分はまだ頼りないけど、大切なほど痛みを感じる。そう思いました。だから猫はあんなにも大きな口を開けて泣いたのかな。言葉より、感じる事の大切さ。自分を信じていなければならないから、人間は大変なのかもしれない。（リサイクル・ブック・エイト担当 山本裕理 やまもとゆり）

編集後記 ■内戦中、戦火にさらされながらも学びつづけたカンボジア人スタッフたち。教育の大切さを身をもって感じる彼らの過去を聞くとき、わたしたちの活動の意義を実感します。これからも共に手を携えていきます。（清野陽子）

## スタッフのインタビュー

私の好きな絵本